

令和5年度 第1回島田市地域包括支援センター運営協議会

開催日時 令和5年6月15日(木)10:00~11:30

開催場所 島田市保健福祉センター 研修室(3階)

出席者 【委員】

静岡福祉大学	渡邊 英勝(会長)
ケアマネットしまだ	福與 麻貴(副会長)
あったか広場一会	千頭和 恵
ツクイ岸町	牧野 悟史
介護老人福祉施設本田山荘	櫻井 一範
被保険者	田村 善彦
被保険者	後藤 純子
被保険者	市川 志織
島田市自治会連合会	吉田 秀二
島田市民生委員・児童委員協議会	山下 雅男
地区社会福祉協議会	横山 鍾一郎

【事務局】

健康福祉部長	宮地 正枝
包括ケア推進課長	大久保 勉
地域支援係長	川本 実子
地域支援係長	米澤 美晴
保健師	菅原 遥香
保健師	齋藤 夢歩
高齢者あんしんセンター第一	尾島 清美
高齢者あんしんセンター第二	大石 鑑子
高齢者あんしんセンター六合	鈴木 桂子
高齢者あんしんセンター初倉	遠藤 久哉
高齢者あんしんセンター金谷	杉山 葉子
高齢者あんしんセンター川根	奥川 泰史

傍聴人 0人

- 1 開会
- 2 健康福祉部長あいさつ
- 3 委員及び事務局職員紹介

4 会長あいさつ

5 報告事項

- (1) 地域包括支援センターの設置と経過・・・・・・・・・・資料 1
- (2) 令和 4 年度事業実績・・・・・・・・・・資料 2
事務局が説明。

【質疑・意見に対する応答】

委員) 包括的継続的マネジメント支援業務に介護支援専門員研修 2 回の実績があるが、ケアマネジャーとしては、包括研修という意識はなかった。

事務局) 地域包括支援センター の包括的継続的マネジメント支援業務に介護支援専門員支援がある。その中のケアマネジメント支援に、委託元である市の立場から支援している研修のため掲載している。

委員) 予防ケアマネジメントは、居宅介護支援事業所の委託分も多くあるが、毎月の実績の業務報告や終了時の返還方法など、必要書類を減らして、簡単にしてもらえるとケアマネジャーの負担が軽減され、その分委託を多く受けることができるし、包括も他の業務にあてる時間が増えるのではないか。他の市町も参考にしていればありがたい。

事務局) 毎月の実績業務報告については、令和 4 年度中に業務報告様式は変更を行い周知している。改善の余地はあると考えるため、検討していく。終了時の返還方法については、地域包括支援センターの代表者会議で昨年度から検討している内容である。今後も話し合いを継続していく。

委員) 厚労省の介護サービス情報公表システムの島田市の包括が 2020 年から更新されていない。

事務局) 市としては、毎年度、最新情報を県へ報告をしている。厚労省の情報更新はいつ頃になるのか、県へ問い合わせしており、回答待ちの状況である。更新に時間を要することが推測出来るので、市で更新が出来る媒体については、随時、最新情報を掲載し対応している。県からの回答を待ち、厚労省の情報更新についての手続き依頼があった際には迅速に対応出来るようにしていく。

6 協議事項

- (1) 指定介護予防支援業務の委託先選定について・・・・・・・・・・資料3
事務局説明

委員) No64 番の住所が違うと思う。確認・修正をお願いする。

承認

- (2) 令和5年度事業実施計画・・・・・・・・・・資料4、5
事務局説明
地域包括支援センター説明

委員) 各包括の実施報告・計画を拝見し、日ごろから地域のためにご尽力いただき感謝している。コロナ渦において、なかなか活動が出来ない中でも多くの活動をしていただけたことは、地域の方々にとってとてもありがたいことだと思う。資料にもあったが、相談件数のなかでも虐待についての件数が増加しており、テレビでもニュースが流れている。身近なところでも虐待なのか悩む事例が増えてきている。親のしつけなのか、喧嘩なのか。市として虐待予防についてどのように地域の方々に周知していくか考えがあれば教えてほしい。

事務局) 各包括には、民生委員に周知したり等、虐待ケースへの対応をしてもらっている。介護施設に従事している方々に対して虐待予防に関する研修を昨年度も行っている。各包括と、令和4年度は掘り起こしという視点を持ち、孤独死や虐待につながるかもしれない方々に対応している。また高齢者・障害者ネットワーク会議を開催し、警察も含めた委員とどのような対応が必要かなどを検討している。

委員) 虐待が多いことは認識している。あの家は虐待が起こっているのかどうかを見分けることや介入が難しいと感じる。民生委員も調査が出来る権限を持っているわけではないため悩ましいところではあるが、各民生委員も工夫しながら情報を集めていく必要があると感じる。

委員) 資料2②の虐待件数294件は、どのような相談経路のものなのか。

事務局) 虐待認定に至っているものは資料2③の数字である。②は虐待が疑われる相談の数字であり、電話や窓口、訪問等のものである。

委員) 認知症カフェは、どこでどのように実施しているものなのか。

地域包括支援センター) 現段階は、まだ計画の段階である。場所としては、処方箋薬局や高齢者の居場所などを想定している。

地域包括支援センター) みどりや薬局の自宅を開放し、認知症カフェが開催されている。虫よけスプレーを作ったり、他地域の薬局と zoom で繋がったり、体操をやったりなど、毎回いろいろな活動をしている。

地域包括支援センター) あったか広場で、地域の住民の方が自由に参加していただき、お茶を飲んだり相談が出来たりするスペースを設けている。不定期に、回覧板を使用し、認知症カフェの開催について周知している。8月には福祉用具の方に来ていただき、認知症カフェを開催する予定。

承認

委員) その他でお聞きしたいことがある。地区社会福祉協議会の会議で、5、6年前から居場所等の担当者や参加者の顔ぶれが変わらず、人数も減少しているという話があった。市や包括が実施してくれている「しまトレ」や「認知症カフェ」などは、今の若い人たちは欲していない状況であり、また今の担当者達は担い手を探すのに苦労している。担い手を探すのに苦労しなくて済むようにしていくにはどうしていくのがよいと考えているか、また、実施している団体の横のつながりが必要だが今後の方向性をお聞きしたい。

事務局) 市の方でも居場所やしまトレ等の参加者も高齢化が進み、担い手がおらずスタッフが苦労していることは把握している。しまトレは体操するだけではなく、外出をする機会にもつながっていたり、コミュニケーションをとることにより、介護予防に繋がっているため、今後も推進していきたいと考えている。

団体間での交流については、今年度、5地区に分かれてしまトレ交流会を計画しているため、情報交換や今後についての相談をしていただける場としていただきたい。

70歳前後の高齢者が参加できない要因としては、働き方が変わっていることが要因の一つであると思う。仕事をしながらの参加は難しいと思うが、早期からの介護予防をしていただけるよう普及啓発を継続していきたいと考えている。

委員) 地域包括支援センターや市の対応の囲いに収まりきれなくなった

方々はやがて、高齢者施設で支えていかなければいけないと思っている。地域包括支援センターが多くのケースを対応してくれているおかげで、市内の施設では必要な時に入所出来る環境が整っている。こちらの不安としては、職員の担い手についてである。5年前は、必要があれば即日に虐待対応をすることが出来るほどのパワーや受け入れ体制はあったが、現在は定員を維持できていない状況である。介護士が不足している中、対応出来るよう人員の確保をして体制を維持していかなければいけないが、介護報酬は上がっていないのに職員への報酬を上げなければいけない現状である。

地域包括支援センターの方々に、多くの事業を実施していただいていることで、施設入所の人数が溢れることがなく経過している。ここで留まっていただくことが大事。新型コロナ感染症も落ち着いてきて、活動もしやすくなると思うため、ぜひ地域と連携して事業を進めていただければと思う。

9 閉会